



# 2018シーズン 最終局面へ。



## Race Report

Round.6 OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT 9/9 Final 決勝 2018年9月9日 岡山国際サーキット  
天候:雨/コース状況:ウエット/Time [1:11'08.008]

この週末は、秋雨前線の停滞が影響し全国的に雨模様となった。岡山国際サーキットのある美作市周辺も、決勝日は朝から断続的に強い雨が降っていた。決勝レースの時間帯に、さらに雨が強まる懸念もあったため、午前8時にタイムスケジュールの変更が発表された。周回数も当初予定されていた68周から54周に減算され、レースのスタート時刻は午後1時55分と早まることになった。決勝レースを見逃したフリー走行は、午前9時からスタート。開始から5分で1台のマシンのクラッシュしたことで赤旗中断となり、結果的には20分ほどの走行になったが、このなかで国本が1分30秒359をマークし2番手につけた。石浦もピットインを繰り返してマシンの調整を行いながら、最終ラップで1分31秒305をマークし8番手となっ

た。曇りを受け、予想よりも雨脚が強まったこともあり、再びスケジュールが変更され、午後2時55分からのスタートとなった。前日の予選で国本は8位、石浦は9位となっていたが、朝のフリー走行でクラッシュしたマシンがエンジン交換をしたためグリッドを降格されることになり、それぞれスタートライングリッドは一つ繰り上がることに。国本が7番手、石浦が8番手で、レースはセーフティカースタートとなった。6周目まではなんとか周回を進めたものの、雨脚が強まり境界が確保できなくなったことから、7周目でレースは赤旗中断。約1時間後に、再びセーフティカー先導でレースが始まると、13周目にリスタートが切られ、本格的に第6戦決勝レースが始まった。国本と石浦は1秒前後のギャップを保って周回、マシンを上げる水煙も

大きく、簡単には差を詰められない上に、足元をすくわれるドライバーも現れ始めるなど、緊迫したレースが進んでいく。23周目に2台の位置が逆転したことで、コース上で他車のクラッシュがあり、またセーフティカーが入ることに。ただしこれは3周ほどで解除され、27周目に2度目のリスタートを迎えた。ギャップが最小限になるリスタートのタイミングが最大のオーバーテイクのチャンスだが、ここでは石浦と国本の順位は変動することなく、それぞれ7位と8位で周回を重ねていった。規定周回数の54周よりも先に最大レース時間のリミットが近づき、さらに残りレース時間が5分を切ったところで1台のマシンがコース上でスピンしストップしてしま

いが離れることなく最大レース時間の70分を過ぎたところでチェッカーフラッグを迎え、石浦は7位、国本は8位でフィニッシュし、揃ってポイント獲得を果たした。なお、トップの走行周回数は34周で、規定周回数の75パーセント周回を満たすことができず、今大会ではハーフポイントが与えられることになった。タイトル争いでは、ランキングトップのニック・キャンディ選手が5位フィニッシュで2ポイントを加算、石浦が1ポイントを加算し、山本尚貴選手がノーポイントに終わったことから、石浦がランキング2位に浮上。キャンディ選手とは4ポイント差で最終決戦を迎えることになる。また、チームタイトル争いではトップと3ポイント差の3位に、両タイトルの連覇を目指し、チーム一丸で最終戦に挑む。

## 石浦 宏明

レース中は、目の前の2台に寄せられているような状況でした。国本選手も、その前の山下選手に引っかけられているように思えましたね。そういう状況で、セーフティカーが入る直前に立川監督から指示があり、国本選手がレコードラインをあげてくれました。チャンピオンシップを考えたい状況でした。チームにとってドライバーズタイトルを獲るのは大事なこと。これまでもチームの判断で助けてもらったこともあるので、最終戦で必ずチャンピオンを獲り、結果で期待にこたえなければいけないと思っています。

## 国本 雄資

リスタートが切られた！1周目がチャンスと思っていましたが、序盤のタイヤの温まりが少し遅く、そこでは思うことができませんでした。徐々にタイヤが温まってからは、逆に前を走る山下選手へのペースが落ちてきたようにも感じていたので、このままいけばチャンスがあるかなと思っていました。セーフティカーが入ってからは、水しぶきで前も見えなくなりました。そのままレースを終えたという形です。最終戦の鈴鹿は比較的好成績としていこうと、しっかりと合わせこんで、ホールトウウィンできるようにしたいです。

### 監督 立川 祐路

理想を言えば、国本に3号車より前に出してもらい、石浦も一緒に前のほうでレースが出来るようになってほしいのですが、やはりオーバーテイクのタイミングがなかなか決まらなかったのが、チャンピオンシップを考えたいチームの判断として、順位を入れ替える所を示しました。国本には、そこで非常にいい思いをしていただけたらいいなと思います。チャンピオンシップを争うのは、あると今期も争えると思います。今日の結果を無駄にしないよう、1号車はききかたやタイヤの状況を確認して、もしも予選結果と変わることになった場合に備えて、最終戦に臨みたいと思います。

### 総監督 浜島 裕英

チャンピオンシップを考え、チームの判断で2台の順位を入れ替えることになりました。昨日の予選順位と今日のコンディションを考えると、世界大会のレベルの戦いになったと思います。ただ、ドライでの専有走行や土曜日のフリー走行など選手を育てるセッションもありましたが、予選結果は思っていたほど良かったのではないかと感じています。選手に苦しみながらも、これを修正して最終戦に臨みたいと思います。

## 今シーズンも沢山のご声援、ありがとうございました！